



「生活習慣病改善プログラム」実施施設紹介① 福岡県福岡市 桜坂内科循環器科

本年3月30日に登録をいただいた後、現在、38人の患者さんの指導にプログラムを利用されている桜坂内科循環器科院長の松吉哲二先生に、参加のきっかけや運用方法などについてインタビューしました。



桜坂内科循環器科
院長 松吉哲二先生

——プログラムへの参加のきっかけは？

本プログラムの生活習慣アンケートは、減塩や薬の服用状況、運動など生活習慣の概要を、短時間にチェックすることができ、日常診療に活かせると考えたからです。生活習慣病をコントロールするには、薬剤に加えてライフスタイルの改善が重要です。そのための生活指導に、こういったアンケート素材は役に立つと思います。

——生活習慣アンケートの実施やデータ入力は、どのような流れで行われているのでしょうか。

生活習慣アンケートは、診察の前にアンケート用紙を用いて看護師が行っています。このくらいの項目ですと約2分程度で終わります。特定健診の生活習慣チェックなどは、質問項目が非常に多いので、受診時にその場で患者さんにすべてチェックしていただくのが難しいことがあります。このアンケートは患者さんにもスタッフにも負担感はありません。データ入力は、検査結果が届いた後に、まとめて私が入力しています。

——どのような患者さんの指導にプログラムを利用しようとお考えですか？

最初は患者像を限定せずに症例を登録していましたが、使っているうちに、メタボリックシンドロームや複数の生活習慣病を合併している患者さんの指導に役立つと考えるようになりました。当院では電子カルテを利用しているので、血圧、脂質、血糖などのデータは数年分をそれぞれグラフで表示することができます。さらに、このプログラムで血圧、家庭血圧、脂質、血糖のコントロール状況を一覧で示すことができれば、例えば「血圧はいいけれど、脂質はもう少しですね」といった具合に、総合的な指導がしやすいと思います。また、管理目標値に達しているかが赤と緑の顔の絵で表示されるので、電子カルテのグラフとは違ったわかりやすさがあり、よりきめ細かな指導に役立つと考えています。

——データ入力は大変ではありませんか？

まとまった時間をとるのは難しいかもしれませんが、入力項目がそれほど多くないので、PCに慣れている先生やスタッフなら空き時間を利用してストレスなく入力できます。プログラムのメリットを考えると、利用価値は高いと思います。

桜坂内科循環器科でのプログラム運用方法

